

兼好法師が自己紹介をしているように記入させることで、人物像につながる言葉を使ってまとめることができる。さらに、「徒然草」を書き綴った動機へと、学びを広げることも可能になる。

【人物像 例】

- 「仁和寺～」の最後の一言は私の優しさなのだ。
- もう年を取っているから周りに親切にしたいのだ。
- 出家前は思うような人生ではなかったので、心残りが無いように、誰かのためになるようにしたためておきたい。

【動機 例】

- 気づいたことを教えてあげたい。
- 出家して愚痴を言い合える相手がいなくてさみしいので聞いてほしい。



私は、兼好法師。

中央の吹き出し以外には何も置かないことにより、気づいたことを気付いた分だけ、どんどん記入することができる。逆に、フリースペースにすることで、「最低いくつは読まなければならない」というプレッシャーから生徒を解放したり、マッピングなどの思考ツールを自由に使用させて整理の仕方を工夫させたりすることも可能になる。